

## 平成30年度第2回青森県立郷土館協議会について（会議概要）

平成30年度第2回青森県立郷土館協議会が開催されましたので、その内容をお知らせします

### 1 日時

平成31年2月27日（水） 午後1時30分～3時30分

### 2 開催場所

青森県立郷土館 小ホール

### 3 案件

- (1) 平成30年度事業実施状況及び利用状況
- (2) 平成31年度事業実施計画（案）
- (3) 青森県立郷土館の博物館評価
- (4) その他

### 4 委員からの主な意見

- 特別展・企画展は、内容はもちろんのことであるが、図録を安価で発行したことは大変良かったと思う。
- 多くの方がスマートフォンを持つようになったので、例えば、展示室でスマートフォンを操作すると解説を見聞きできる仕組みがあればよいと思う。
- 30年度事業は、全体的には全部成功していると思う。特に、76名もの高校生をスチューデント・キュレーターに委嘱したのは、これから郷土館を背負っていくという意味もあってすばらしい事業である。歴史など郷土館で扱うことがらに大変興味を持っている学生もいるので、公募等で掘り起こして育てていてもらいたい。
- 連携展は回数・内容とも大変充実していると感じた。テーマが全て特徴ある個性的なもので、観覧意欲を喚起するような内容であったのではないかと思う。
- M L A連携として図書館等との連携も考えていただきたい。3つが連携することにより、豊かに様々なことが感じられると思う。  
※M：Museum（博物館） L：Library（図書館） A：Archives（公文書館）
- 「博物館と観光」というテーマでの講演会は、時宜にかなったものであり、よい。
- 県南でも連携展を企画していただきたいと思う。八戸市では図書館ではないがブックセンターも開設されたので、連携できないか検討してもらいたい。
- スチューデント・キュレーターの事業は是非続けてほしい。若者の地域への定住促進の意味でも、郷土に興味を持ってもらうことは大変よいことである。少子高齢化対

策の一つとして、郷土館が先頭になって、これを契機に若者を取り込むことを積極的にやってほしいと思う。公募であれば、英語が得意な学生の協力が得やすいのではないかな。

- 登録するとイベント情報等がスマートフォン等に定期配信されるような仕組みを導入できないか。観覧者の増にもつながる有効な方策であると思う。
- 郷土館では、校長会や教頭会で出前授業等について説明されているが、教諭段階まで情報が伝わらない学校もあり、一番の問題点ではないかと思う。これは学校の問題ということにもなるが、広報の仕方ということでは検討の余地があると思う。
- 昨年、むつ市の公民館で県考古学会の発表会があり、その時ちょうど郷土館では考古関係の企画展を行っていたと思うが、郷土館を感じることができる折角の機会であったのに特に広報等はなかったようだ。様々な機会をフルに活用して郷土館をもっとPRすべきではないかと思う。
- 青森県はこれだけ力を入れて世界遺産登録を推進しているということを、郷土館としても、例えばパネルを作ってエントランスホールで紹介するなどしてPRすべきではないかと思う。
- どこかの市町村の資料は必ず何かに展示されている、というような観点から資料の選択や展示を少し見直してもよいのではないかと思う。また、展示そのものはかなり固定化しているので、頻繁に更新した方がよいと思う。考古資料に関しては、毎年よい資料が出ているので、例えば、津軽ダム関係のものはすぐ常設展に加えるなど、いろいろなことで少しでも市町村との密着度を高めていただきたい。
- 子供向けイベントのめぐり回し大会は、このような大会があると木駒回しが上手になった子の励みにもなること、また、このような昔遊びに触れる機会は少なくなってきており、大事なものとして引き継いでいくべきものであることから、引き続き開催してほしい。
- 解説員、受付の方の笑顔、懇切丁寧な対応は非常によいので、大事にしてほしい。
- 自然観察コーナーにカワセミのはく製があってもいいと思っている。意外と見られる身近な鳥であり、また羽がきれいなブルーのメタリック色で、飛ぶ宝石と言われるくらいきれいな鳥でもある。宮沢賢治の童話「やまなし」にもカワセミの描写があり、子どもたちのためにもカワセミのはく製がほしいところである。
- 子どもを対象とした火打石による火のおこし方の体験のコーナーがあればと思う。また、縄文時代は木でこすって火をおこし、そして近世の火のある生活につながり、それは火打石でやるということ、出前授業でやってみれば良いのではないかと考える。
- 東奥児童美術展については、もう少し期間が長くできないかと思う。子供の絵は心そのまま感じるままに描かれすばらしいと思うので、何点かこの展示会が終わっても年度中くらいお借りしてここに展示できないかと思う。また、子ども美術館があればよいと思う。

- 31年度特別展「ひらく・つくる・みのる－青森の湿地と稲作のはなし－」は大変訴求力のあるテーマで、青森県の自然・文化・産業を接続した大変よい展示になるものと感じた。関連して、日本酒に関する展示やイベントを実施してもよいのではないかと。
- 31年度企画展「縄文遺跡群と県立郷土館－発掘調査の軌跡－」に関して、例えば十日町市の国宝の火焰型土器が出土した遺跡と北海道・北東北3県の遺跡とでは何がどう違い、4道県の遺跡は世界遺産候補としてどういう価値があると言えるのか、出土物など考古学の成果で示していただくと理解が深まるのではないかと思います。
- 「コロコロ・STONE」のように、一つのものから始まるストーリーのある展示をこれからもしてほしい。また、キャプションを読んで理解するのではなくて、目で後を追ってだけで展示の内容がわかるというやり方も是非検討してほしい。
- 教育普及事業についてはもう少し力を入れてもよいのではないかと思います。例えば講演会等は、県内各地で開催した方が、いろいろな意味で博物館の内容を知ってもらうということ、興味を持ってもらうということにつながり、啓発活動になるのではないかと考える。
- わくわく体験コーナーでは、実感、重さ、手触りを体験することができる。今後もできるだけ体感できるものを子どもに見せて触らせて感じさせてほしいと思う。
- 基本的運営方針の改訂案は、今の時代の在り方、今後どうあるべきかということ踏まえたすばらしい内容になっていると思う。博物館評価では、PDCAサイクルのチェックとアクションに積極的に取り組んでいただきたい。